



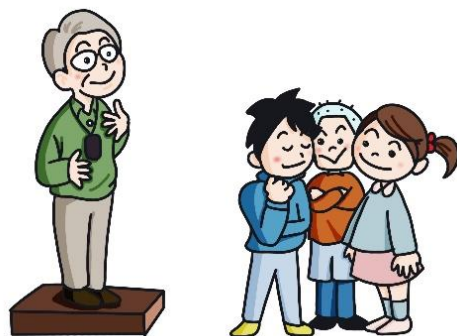
前回は「R5 年度とかねっと夏季研修会」の感想をお伝えしました。今回は補聴システムの情報をお届けします。聴覚に障がいのある幼児児童生徒は補聴器や人工内耳という機器を使用しながら聞こえを補っています。これらの機器の機能が最も発揮される環境は話し手との距離が1m程度で1対1の対面だと言われています。しかし、保育所や幼稚園、小・中・高校ではたくさんの人が一緒に生活しています。また、教室だけではなく、体育館やグラウンドといった広い場所での活動もあります。そこで様々な環境において補聴器や人工内耳の機能を発揮するための補聴システムについてご紹介します。



デジタル無線方式を使ったフォナック社の「Roger（ロジャー）」を紹介します。ロジャーは、干渉に強い周波数ホッピングという無線方式を利用しています。ロジャー送信機（マイク）が拾った音声は、デジタル信号で同じネットワーク ID を共有しているロジャー受信機のみ飛びます。そのため異なる ID のグループ間では混信や干渉が起こりません。（ここがFMマイクと大きく違う点です）難聴の子どもが多く

在籍する聾学校でも使われています。また、ロジャー送信機（マイク）をグループの中心に置くことで、話し合い活動などで友達の話す声がロジャーを通してダイレクトに補聴器や人工内耳に入っていきます。

反響や騒音が多い場所などでもロジャーを通して聞きやすい声が補聴器や人工内耳に届きます。（直線で遮る物がない場合で20メートルほど届きます）詳しくはフォナック社のホームページをご覧ください。



（文責 帯広聾学校 コーディネーター）